

歴史

第3期ゼミ長 高木 研太郎

最近、段々と仕事で相手する方々の年次も上がり、大企業の役員さん・部長さんとやり取りする機会が増え、彼らと仕事以外の話をする機会も少しずつ増えてきました。僕は人生の先輩方と語り合えるような趣味をそれほど持っていないのですが、唯一彼らとある程度満足に話せるのが歴史についてです。昔からずっと日本史中心に歴史が好きだったおかげで、司馬遼太郎の本などを多めに読んでいたため、何とかその土俵で彼らと話すことができます（とはいえ読めていないものも多いので結構ギリギリですが…）。

先日、お世話になっている役員さん方と飲みに行ったときは、仕事を頼んでくれている方なのですが、仕事なんていいから俺が言った本を読め、と10冊くらい歴史の本を中心に宿題を出されました。もちろん仕事は投げだせませんが、歴史を読めば人生が学べる、仕事ばかりしていたらダメだ、という言葉まで頂いたので、少しずつ宿題をこなしながら人生を学ぼうとしているところです。



著者が奨められた本の一部

まだ僕は歴史で人生を学べと言えるほど歴史を学ぶことの意義を理解できてはいないのですが、（中には多分にフィクションもあると思いますが）歴史で描かれている人たちが過去どのような思想で、どのような目的・考えを持ち、歴史の分岐点でそれぞれ決断していったのか、というのを追っていただけでも十分に楽しいですし、胸が熱くなりますし、心を動かされることがたくさんあります。

例えば、高杉晋作は晩年病に侵されてしまいますが、病が進行しても彼の目指す長州藩・日本の将来のために病の身で戦い続けます。坂本龍馬も体調が悪かろうがどれだけ疲れていようが、俺が1日止まれば日本の夜明けが1日遅れると言って信じられない強行スケジュールで全国を駆け巡ります。諸葛孔明は1国の首相的な立場だったにも関わらず、あくまでも国を良くすることを考えて信賞必罰を貫き、また清貧を貫いて自らの俸禄は一国の首相に見合わぬ大変少ないものだったそうです。

今の世の中で、これだけ強い思いを持って自分の国を良くしようと思っている人がいるでしょうか。三国志はどちらかという成り上がりを目指す人間の方が多いですが、幕末の世界には同じような思いを持ちながらも志半ばにして世を去って行く志士たちがたくさんいます。

そのような想いを読んで、自分がどうやって熱意を持つものを見つければいいのか考えることも多いです。また1つ1つの政略や戦における戦略・戦術を読んで、人の心の読み方だったり、人を味方につけるための方法だったり、そういったことを学ぶこともできます。皆さん読んで感じることはきっと異なるとは思いますが、確かに人生の参考になる部分も出てくるし、実社会に役立てることができる部分も出てくるし、単純に漢字にも強くなれるし、読むと学びが多くて実りが多いよなと思えます。また、将来お偉いさんと話すときに共通の話題として盛り上げられる可能性も非常に高いので、歴史を学ぶ・読むのはいいことだなと思えます。

最近、ふと気づかされたただけのことで長文になりましたが、よかったら色々読んでみてください。

僕も少ないながらオススメは一応あるので興味あれば聞いてください。



著者が昨年の年始に引っ越した新居。「いつでも遊びに来てください」